



## ■ 「ヘリテージマネージャー」

### ①文化財ドクター派遣事業

令和6年1月に発生した令和6年能登半島地震では多くの犠牲者が出ました。その後の豪雨災害もあり未だ復興の途中であります。改めて被害者にお悔やみを申し上げます。

この様な大規模災害が発生した時には、多数の建造物被害が発生します。住宅等においては応急危険度判定が速やかに実施されて危険な建物は使用の制限がかかります。その後、国指定等以外の文化財建造物を主な対象として、応急措置及び復旧に向けて専門家を派遣し、技術支援等を実施するために、被災建造物復旧支援事業（文化財ドクター派遣事業）が、文化財防災センターを事務局として実施されます。災害時における歴史的建造物の被災確認調査および技術支援等に関する協力協定締結団体（日本建築学会、日本建築士会連合会、日本建築家協会、土木学会、国立文化財機構文化財防災センターの5団体）がその構成員となって、活動を行います。

この調査は3段階に分けて実施されます。

一次調査は、外観目視による被害状況の判定を行い、被害なし、一部損壊、半壊、大規模半壊、全壊に区分けされます。

二次調査は、所有者・管理者の許可を得て敷地内・建物内に入って調査を行い、応急処置の必要性や対処方針を含む所見、文化財的価値を判定します。二次調査は一次調査の結果から、被害状況などによって対象を選択して行われます。

三次調査は二次調査の対象建物に対し、具体的な修理方針と概算見積もり額を提示することで、所有者・管理者に建物を修理し、保存していただくことを後押しすることを目的として行います。国や県市町の助成がある指定文化財以外の地域の歴史的建造物はその修理方法や修理金額が分からないまま、公費解体により失われてしまうことが多いのです。

### ②ヘリテージマネージャー

前記の文化財ドクターにはヘリテージマネージャーが選任されます。ヘリテージマネージャーとは、60時間の講義と演習による講習会を修了し登録された人を呼びます。静岡県ではこの養成を建築士会が担っております。そして、このヘリテージマネージャーの活動を補佐し、情報交流を行うために静岡県ヘリテージセンター（SHEC）が景観整備機構まちづくり委員会の内部組織としてあります。

全国各県にもこのような、ヘリテージセンターがあり、その相互の情報交換のための組織として全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会が、建築士会連合会を事務局としてあり、その活動報告が建築士会

全国大会において行われています。

### ③ヘリテージマネージャーの課題

ヘリテージマネージャーは「地域に眠る歴史的文化的遺産を発見し、保存し、活用し、まちづくりに活かす能力を持った人材」と定義されています。歴史的建造物的を発掘し、再評価する能力や保全・活用提案ができる能力などが必要とされます。

しかし、文化財ドクターの三次調査においては、文化財に関する知識だけでなく、修理の見積を行うための積算に関する技術が必要となります。ごく一部の建築士を除いては積算が苦手な方が多いと思います。ヘリテージマネージャーもこの方面が苦手な方が多いようで、令和6年能登半島地震文化財ドクター派遣事業が三次調査を行う段階に入った今、石川県から東海北陸の6県に対して技術者の派遣要請が行われるようです。

### ④東北での活動

東北大震災の際に文化財ドクターとして宮城県で実際に活動しました。2月の派遣で氷点下10℃の中、建物の実測調査を行いました。



地元の方々に大変感謝されたことを記憶しています。2回目の調査に伺った建物が技術的助言に従い後に修理が行われて無事に残せましたとの連絡を頂き感無量になったことも大切な思い出です。

### ⑤ヘリテージマネージャーの養成

静岡県のヘリテージマネージャー養成講座はここ数年参加者が少なく休講していました。折角養成したヘリテージマネージャーも高齢化で、減少が進んできました。能登半島地震の発生を受けて、改めてヘリテージマネージャーの必要性が高まっていますので、令和7年度はヘリテージマネージャーの養成講座を再開する予定です。

（景観整備まちづくり委員長 倉田裕司）